

東三河支部

9月例会

「豊橋市バイオマス資源利活用センター」見学会

東三河支部（松井忠博支部長）は9月14日（木）会員28名参加のもと、人口規模では国内最大規模となる「豊橋市バイオマス資源利活用センター」（豊橋市神野新田町字中島75-2中島処理場内）の見学会を行いました。施設の説明と引率は豊橋市上下水道局下水道施設課課長補佐兼中島処理場長 鈴木昭登氏、豊橋市環境部廃棄物対策課主幹 佐藤 実氏、課長補佐 金子雅泰氏、主任 古谷智晴氏が同行されました。

参加者は中島処理場の管理棟に集合し、開会の挨拶で松井支部長は「今回研修指導委員会委員長 土井政博氏のご協力をいただき、豊橋市より許可を受け見学が叶いました。廃棄物からリサイクル、そしてエネルギーとなる工程を学び、見識を深める貴重な機会としてください。」と述べました。次に土井委員長から「この施設はPFI手法により民間委託で運営されております。バイオマスを全てエネルギー化するために、メタンガスを抽出後、残さを炭化して燃料化することで100%再生可能となりました。我々産業廃棄物業界でも有機汚泥、動植物性残さは一部で困りもの



施設の説明をする鈴木
処理場長

でしたが、有効利用できないものかと考え今回の見学会に到りました。」と主旨説明後、鈴木中島処理場長から施設の発足経緯及び施設の概要説明があり、参加者は施設の見学に向かいました。

担当者に誘導されセンター正面から入り、最初に



施設の概要等について説明を受ける参加者の皆さん

計量棟の前で搬入される作業車について話を聞き、次に受入棟に入り生ごみの前処理技術として破碎分別機について説明を受けました。機器はブレードが高速回転し、遠心力で生ごみと発酵不適物を分別、生ごみはスラリーとなって下部に落ち、風圧で発酵不適物を側方から排出する仕組みです。特徴としては高い分離効率、生ごみはスラリー上に粉碎し、発酵・分解を促進するとのことです。その後、メタン発酵槽、ガスホルダ、ガス発電装置等を遠巻きに確認し、管理棟に戻りました。参加した多くの方は、この施設の見学はとても貴重であり、今後の業務の展開に生かしていきたい、とのことでした。

